

ロリータ (1961)

LOLITA

メディア 映画
ジャンル ドラマ ロマン스
製作国 イギリス
色彩 B&W
時間 153分
初公開日 1962/09/22
公開情報 MGM
リバイバル 1994/12 [ヘラルド]

【解説】

少女愛好家“ロリコン”の語源ともなっている、ナボコフの同名小説をS・キューブリックが映画化した問題作。夏を過ごそうと田舎町で下宿するハンバート（J・メイソン）に、未亡人シャーロット（S・ウィンターズ）は積極的だが、当のハンバートは彼女の娘・ロリータに心奪われていた。やがてハンバートとシャーロットは結婚するが、夫が娘を愛してる事を知ったシャーロットは逆上のあまり事故死してしまう。心置きなく二人だけの暮らしと相成るはずだったが、近所の視線も気になり、ハンバートはロリータを連れて車で旅に出るのだが……。原作者ナボコフ自身が脚本を書き、その意味で忠実な翻案とは言えるのだが、いかんせんそれをフィルムに転化させる段取りにしくじった感がある。そのもっとも大きな要因はやはりロリータを演じるS・リオンの魅力の無さだ。異常性愛のひとつとみなされる“少女愛”をテーマにしている以上、それを体現できる女優でなければ意味がない。単なる可愛い子ちゃんの域を出ていないリオンから、そのオーラは発せられていないのだ。75000人の候補から選ばれたというのが本当に事実ならキューブリックの人選ミスとしか言えないだろう。メイソン、ウィンターズ、そしてもう一人の“ロリータに惑わされる男”を演じるセラーズなど、傍が芸達者なだけに、その落差は激しく見えてしまう。尺が長すぎるのも無論、問題ではある。

【クレジット】

監督	スタンリー・キューブリック	Stanley Kubrick	
製作	ジェームズ・B・ハリス	James B. Harris	
原作	ウラジミール・ナボコフ	Vladimir Nabokov	
脚本	ウラジミール・ナボコフ	Vladimir Nabokov	
撮影	オズワルド・モリス	Oswald Morris	
音楽	ネルソン・リドル	Nelson Riddle	
	ボブ・ハリス	Bob Harris	
出演	ジェームズ・メイソン	James Mason	ハンバート・ハンバート
	スー・リオン	Sue Lyon	ロリータ・ヘイズ
	シェリー・ウィンターズ	Shelley Winters	ロリータの母
	ピーター・セラーズ	Peter Sellers	クレア・キルティ
	マリアン・ストーン	Marianne Stone	
	ロイス・マクスウェル	Lois Maxwell	